

新しい教養教育の実施に向けたFD

モジュール科目準備説明会

【趣 旨】

新しい教養教育の実施体制と教育方法についての理解を深め、モジュール科目の今後の準備に資する。

【対 象】 全学モジュールのテーマ責任者

【日 時】 平成23年11月21日（月）13:00-14:30

【場 所】 教育学部23番教室

【内 容】

13:00 ~ 13:05	開会挨拶	橋本 健夫 副学長
13:05 ~ 13:30	新たな教養教育について	片峰 茂 学長
13:30 ~ 14:10	実施体制と教育方法	橋本 健夫 副学長、山地 弘起 准教授
14:10 ~ 14:30	質疑応答	

【到達目標】

新しい教養教育の実施体制と教育方法について理解を深め、テーマ責任者としての役割の内容を把握していただく。

【主 催】 教務委員会

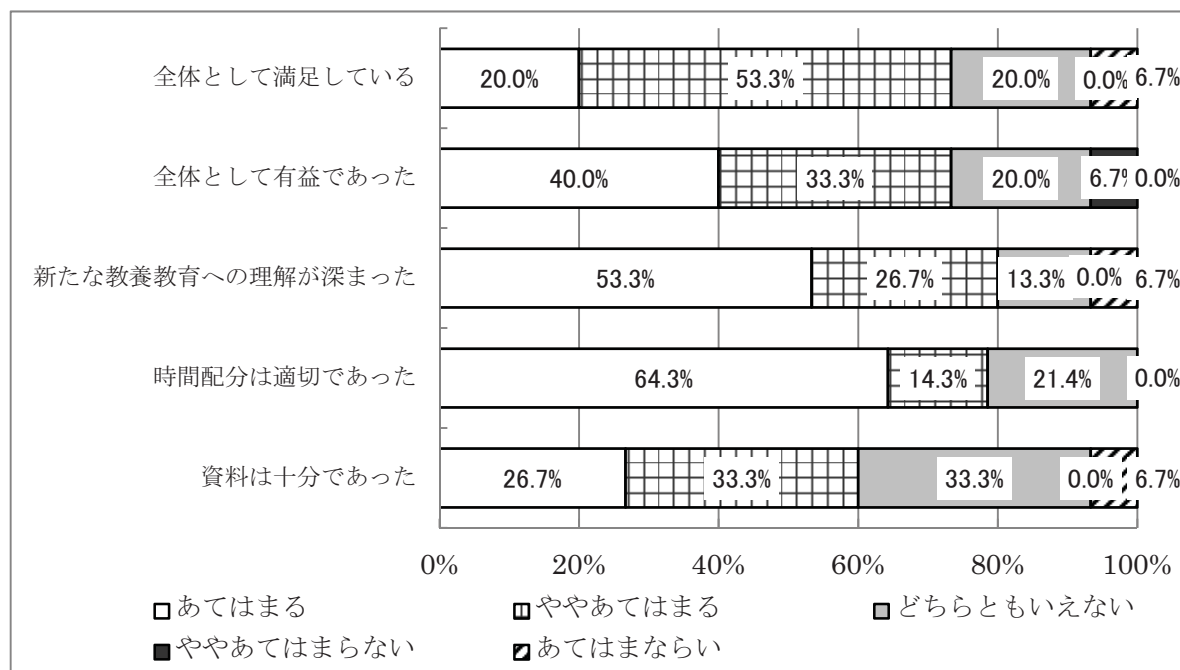
【企画・実施】 評価・FD教育改善専門部会

【参加者】

23名（受講証発行対象者：22名）

所 属	職名	人数
産学官連携戦略本部	本部長	1
	助教	1
教育学部	教授	2
	准教授	2
経済学部	教授	2
医学部（医）	教授	1
医歯薬学総合研究科（医）	教授	1
医歯薬学総合研究科（保）	教授	2
医歯薬学総合研究科（歯）	教授	1
医歯薬学総合研究科（薬）	教授	1
工学研究科	教授	2
	准教授	2
水産・環境科学総合研究科（水）	教授	2
水産・環境科学総合研究科（環）	教授	2
情報メディア基盤センター	教授	1

【参加者からの評価】



○新たな教養教育について、疑問点や感想、ご意見などがありましたら、率直にご記入ください。

- ・全体の目的・目標は明確になったと思うが、テーマ責任者が学生モニタリングするということに驚いた。無理な気がする。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・今後、チューターとの連携についての話が必要。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・去年、実施した式見/ハイツでのPBL（H22.12）の資料等を大教センターHPでアップし、PBLの事例紹介をしていただきたい。（確か、100人規模のPBL事例もあったように記憶している。）
- ・「Passion」「Mission」「Action」リーダーシップの資質として重要なこととされている。各教員にこの精神を持っていただければ成功するはずと確信する。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・今回モジュールの本学での位置づけが一番分かりやすかった。（工学研究科・教授）
- ・山地先生の資料内容が見えないものがある。見たい内容であった。（工学研究科・教授）
- ・科目の組み立て、関連などで、非常に参考になった。（医歯薬学総合研究科・教授）
- ・概要は理解できたが、具体的には難しさを感じた。更に、他の教員にそれを伝えるのは、困難さがあると思われる。（教育学部・教授）
- ・質問にあった複数教員が担当する科目のアクティブ・ラーニングの実践方法について、検討する機会を作った方が良かった。（教授）
- ・1年生前期の教養セミナーとの関連はどうなっているのか。私自身は教養セミナーを自己探求型の授業の基礎と考え、課題設定やプレゼンレポート等を行ってきた。そのため、それを前提として、モジュール科目の授業を進めていこうと考えている。しかし、学部横断の時も教員の個人差が大きかったと聞いている。学部に任されて以後どうなったのか分からない。（教育学部・准教授）
- ・アクティブ・ラーニング等、全体的な話は良いが、なぜ「モジュール」でやらなければならないのか、担当者に説明できるような解説を希望する。（教育学部・准教授）
- ・大人数で学生参加型講義を1人の教員でできない。（工学研究科・准教授）
- ・言われていることは正論であるが、まず教養セミナーの総括があって、それを踏まえての議論が必要ではないか。（工学研究科・准教授）
- ・PBLやプレゼン等、必要ではあるが、基礎学力があってからのことではないか。モジュール方式の教育で基礎学力の底上げができるのか。疑問が残る。まずは、全学教育で基礎をしっかりと学び、その活用は学部教育で行う方が効果的なのではないか。（水産学部・教授）
- ・大学としての新しい挑戦に期待している。（産学官連携戦略本部・助教）
- ・TAの募集や管理は、どこで行われているのか？（産学官連携戦略本部・助教）
- ・自分の能力UPが必要。（産学官連携戦略本部・助教）

○今回のセミナーの運営に関して、何か感想やご意見がありましたら、ご記入ください。

・一部資料がとても見にくかった。(教育学部・准教授)

【総 括】

FD の内容は以下のものであった。片峰学長の「新たな教養教育について」と題して、高校を訪問した時の紹介内容と教養教育の改革の概要が説明された。橋本副学部長からは「実施体制と教育方法」について学長の説明をやや深めた内容で説明があった。山地准教授からは、同じく「実施体制と教育方法」に関わるアクティブ・ラーニング、成績評価の方法、海外の例等についての紹介がなされた。

今回のFDの内容や実施方法等については適切であり、特にこれまでのFDと違って時間が1.5時間であることも、集中して聞くことができたと思われた。アンケートの結果でも「時間配分は適切であった」に対して「あてはまる」と答えたのが64.3%であったことからそれが言える。参加された先生方には新たな教養教育の必要性や目的などが理解できたと思われた。しかし、一方ではこの内容を参加者が他の教員に説明し、理解を得ることは困難なことであることを痛感した。このことは当日の質問やアンケートの意見にも見られた。また、「概要は理解できても具体的には？」という意見が多かったことも注目すべき点であった。これは実際にやってみたいと理解できない部分もあり、ある意味では当然かも知れないが、参加された先生方には、その点が払拭されないままであったと想像される。

(中西弘樹)

受 講 証 明 書

〇〇〇〇

〇〇 〇〇 殿

下記のとおり第 69 回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント
を受講したことを証明します。

記

日 時 平成 23 年 11 月 21 日 (月)

テーマ 「新しい教養教育の実施に向けた F D」

モジュール科目準備説明会

平成 年 月 日

長崎大学大学教育機能開発センター長

橋 本 健 夫

第69回長崎大学FD モジュール科目準備説明会

日時：平成23年11月21日(月)13:00-14:30

場所：教育学部2階23番教室

受講対象者：22名(参加者23名)

NO	氏名	所属	職名	備考
1	中島 貴奈	教育学部	准教授	
2	中西 弘樹	教育学部	教授	評価・FD教育改善専門部会委員
3	長島 雅裕	教育学部	准教授	
4	永田 聖二	教育学部	教授	
5	赤石 孝次	経済学部	教授	
6	深浦 厚之	経済学部	教授	
7	西田 教行	医歯薬学総合研究科(医)	教授	
8	安武 亨	医歯薬学総合研究科(医)	教授	
9	松坂 誠應	医歯薬学総合研究科(保)	教授	
10	宮原 春美	医歯薬学総合研究科(保)	教授	
11	渡邊 郁哉	医歯薬学総合研究科(歯)	教授	
12	中山 守雄	医歯薬学総合研究科(薬)	教授	
13	林 秀千人	工学研究科	教授	
14	松田 浩	工学研究科	教授	
15	松田 良信	工学研究科	准教授	
16	村上 裕人	工学研究科	准教授	
17	高尾 雄二	水産・環境科学総合研究科(環)	教授	
18	中西 こずえ	水産・環境科学総合研究科(環)	教授	
19	石橋 郁人	水産・環境科学総合研究科(水)	教授	
20	武田 重信	水産・環境科学総合研究科(水)	教授	
21	丹羽 量久	情報メディア基盤センター	教授	
22	久保 隆	産学官連携戦略本部	助教	
23	山下 敬彦	産学官連携戦略本部	本部長	一部未受講のため発行対象外